数学 AII(奈須田) 第 4 週 ②

教科書:「不定積分の積分定数 *C* を省略する.」

### 1.5 置換積分法:積分計算の技術①

### ☑ 合成関数の微分法の逆演算としての「置換積分法」

復習: 合成関数の微分法.

y = f(u) = f(g(x)) のとき,

$$\frac{dy}{dx} = \frac{dy}{du} \cdot \frac{du}{dx} = f'(u) \cdot g'(x)$$

つまり、微分して  $f'(g(x)) \cdot g'(x)$  になる関数は、 f(g(x)) である.

(復習終わり)

これの"逆"を考えると、 $\int f'(g(x))\cdot g'(x)\,dx=f(g(x))+C$ なる不定積分の公式が得られる。この左辺について、 $u=g(x),g'(x)=\dfrac{du}{dx}$ であることを用いると、

$$\int f'(g(x)) \cdot g'(x) \, dx = \int f'(u) \frac{du}{dx} \, dx = \int f'(u) \, du$$

と変形できる.置換積分法が有効なのは, $\underline{f'(g(x))\cdot g'(x)}$  という複雑な被積分関数が  $\underline{f'(u)}$  というシンプルな関数に置き換えられるからである.

以上より、(少し記号を整理して)次の置換積分法の公式を得る:

$$F'(u) = f(u), u = g(x)$$
 とすると,

$$\int f(g(x)) \cdot g'(x) dx = \int f(u) du = F(u) + C = F(g(x)) + C$$

※ 被積分関数が「 $f(g(x)) \cdot g'(x)$ 」という型であれば、u = g(x)とおいて、上の公式が使える.

#### 【例題 1.11】

次の不定積分を求めよ.

$$(1) \int \sin^3 x \cos x \, dx$$

(2) 
$$\int (4x+3)^5 dx$$

Ø

問題 1.13 次の不定積分を求めよ.

$$(1) \int (\sin^2 x + 1) \cos x \, dx$$

$$(2) \int \sqrt{2x+3} \, dx$$

$$(3) \quad \int \frac{x}{(x^2+1)^3} \, dx$$

$$(4) \quad \int x^2 e^{x^3} \, dx$$

# $\blacksquare$ 特に $f(u) = \frac{1}{u}$ の場合

 $f(u) = \frac{1}{u}$  のとき、置換積分法の公式は、

$$\int \frac{g'(x)}{g(x)} dx = \int \frac{du}{u} = \ln|u| + C = \ln|g(x)| + C$$

となる.

※ これは、対数微分  $\frac{d}{dx} \ln |f(x)| = \frac{f'(x)}{f(x)}$  の逆である.

例. 
$$\int \tan x \, dx = \triangle$$

問題1.14 次の不定積分を求めよ.

(1) 
$$\int \cot x \, dx$$
 (2) 
$$\int \frac{e^x}{e^x + 4} \, dx$$
 (3) 
$$\int \frac{x}{x^2 + 5} \, dx$$

## ☑ 定積分における置換積分法

定積分  $\int_a^b f(g(x)) \cdot g'(x) dx$  の計算法を考えよう.

これまでの議論から、関数  $f(g(x)) \cdot g'(x)$  の不定積分は F(g(x)) + C とわかっているので、

$$\int_a^b f(g(x)) \cdot g'(x) \, dx = \left[ F(g(x)) \right]_a^b = F(g(b)) - F(g(a))$$

である。ただし、実際の計算では、x を変数とした F(g(x)) (複雑) ではなく、u を変数とした F(u) (シンプル) を使って計算することも多い。x が a から b まで変化するとき、

$$u = g(x)$$
 は、 $g(a) (= \alpha \ \epsilon \ \delta \ \epsilon)$  から  $g(b) (= \beta \ \epsilon \ \delta \ \epsilon)$  まで変化する (\*)

ことに注意して,

$$\int_{a}^{b} f(g(x)) \cdot g'(x) \, dx = \int_{\alpha}^{\beta} f(u) \, du = \left[ F(u) \right]_{\alpha}^{\beta} = F(\beta) - F(\alpha)$$

となる.

※ 
$$(*)$$
 について、右のような対応表をかいておくと良い:  $\begin{array}{c|cccc} x & a & \rightarrow & b \\ \hline u & \alpha & \rightarrow & \beta \end{array}$ 

数学 AII(奈須田) 第4週②

### 【例題 1.12】

次の定積分の値を求めよ.

(1) 
$$\int_{1}^{2} (2x-3)^4 dx$$

(2) 
$$\int_{1}^{e} \frac{\ln x}{x} dx$$

問題1.15 次の定積分の値を求めよ.

(1) 
$$\int_0^1 (3x-1)^3 dx$$

$$(2) \quad \int_{e}^{e^2} \frac{dx}{x \ln x}$$

(2) 
$$\int_{e}^{e^2} \frac{dx}{x \ln x}$$
 (3)  $\int_{0}^{\frac{\pi}{2}} \sin^5 x \cos x \, dx$ 

## 置換積分法の variation

以下、不定積分の置換積分法について記述する。定積分の場合も同様である。

Var. 1 
$$\int f(x) dx = \int f(g(t)) \cdot g'(t) dt$$
  $(x = g(t) とおいた.)$ 

※ 置換積分法の公式で、第2辺から第1辺に変形した、と考えればよい。

例 1. 
$$\int \frac{dx}{\sqrt{4-x^2}} = \int \frac{1}{\sqrt{4-4\sin^2\theta}} \cdot 2\cos\theta \, d\theta \qquad (x = 2\sin\theta \, \, \xi \, \, \text{おいた.})$$
$$= \int \frac{\cos\theta}{\sqrt{1-\sin^2\theta}} \, d\theta = \int d\theta = \theta + C = \boxed{\sin^{-1}\frac{x}{2} + C}$$

% うまい変数変換によって、「 $f(g(t)) \cdot g'(t)$ 」の不定積分が簡単にわかるようになる場合がある。 → どういう場合にうまくいくかは、上の例のような「定石」を学んで覚えていくしかない。 数学 AII(奈須田) 第 4 週 ②

例 2. 
$$\int \tan^2 x \, dx = \int u^2 \cos^2 x \, du \qquad (u = \tan x \, \, \xi \, \exists u \in \mathbb{Z})$$

$$= \int \frac{u^2}{1+u^2} \, du = \cdots ?? \qquad \qquad \text{※ 置換して積分が簡単になるとは限らない}.$$

例 3. 
$$\int \sin^2 x \, dx = \int u^2 \cdot \frac{1}{\cos x} \, du \qquad (u = \sin x \, \delta \, \exists u \, \delta \, dx)$$
$$= \int \frac{u^2}{1 + \sqrt{1 - u^2}} \, du = \cdots ??$$
 ※ 置換して簡単になっていない.